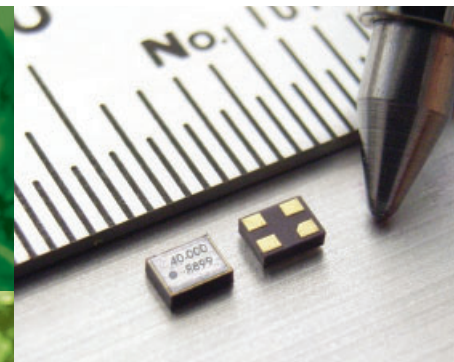


第64期 中間株主通信

2008年4月1日～2008年9月30日

2008 Interim
Business Report

リバーエレクトック株式会社





To Our Shareholders

株主の皆様へ

当第2四半期は厳しい業績でしたが、
今後は更なる原価低減に努め、
新製品を中心とした拡販体制を強化して、
業績の改善を進めてまいります。



株主の皆様におかれましては、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに第64期中間株主通信をお届けするにあたり、皆様に一言ご挨拶申し上げます。

当第2四半期は、金融危機に対する先行き不安感の高まりやデジタル機器の需要低迷などから厳しい経営環境で推移いたしました。このような経営環境のもと、当社グループにおきましては、超小型水晶製品を中心とした製品の提供に努めましたが、携帯電話・無線モジュール向け製品の受注の伸び悩みや供給過多に伴う販売価格の下落などの影響が大きく、連結売上高は前年同期に比べ大幅な減収となりました。また、まことに遺憾ながら連結四半期純損失を計上することとなり、株主の皆様には

深くお詫び申し上げます。

当社グループは、当期より中期計画「RIVER VISION2011」をスタートさせておりますが、策定当初と比べ、経営環境は一変し厳しいものになっております。今後につきましても、予断を許さない状況が続くものと予想しております。このような状況のもと、経営体制の引き締めを図り、役員以下、グループ全社員が一丸となって業績の改善に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成20年12月

代表取締役社長 若尾富士男

CONTENTS

1… 株主の皆様へ

2… 財務ハイライト

3.4… 営業の概況

5… クローズアップ

6… トピックス

7.8… 連結財務諸表

9… 株主様アンケート特集

10… 会社概要・株式の状況



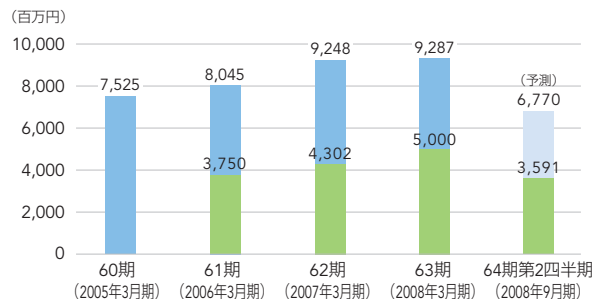


Financial Highlights

財務ハイライト

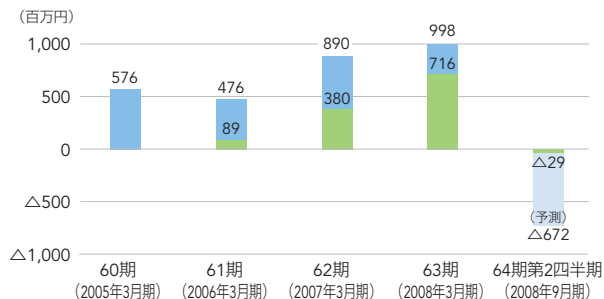
売上高

■ 通期 ■ 第2四半期



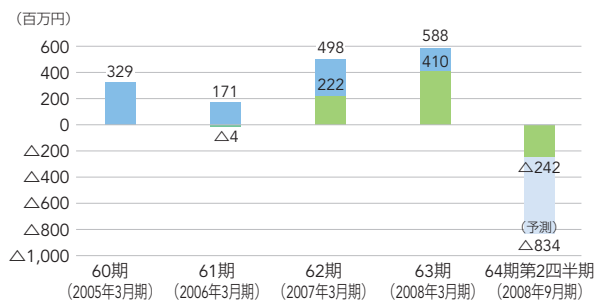
経常利益

■ 通期 ■ 第2四半期



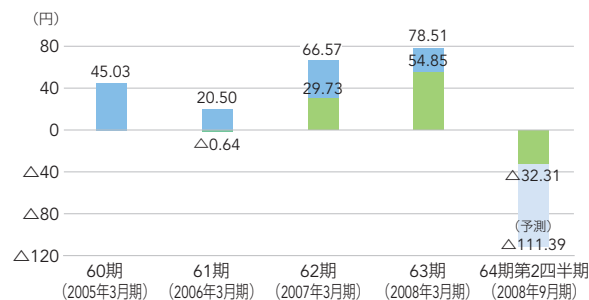
四半期(当期)純利益

■ 通期 ■ 第2四半期



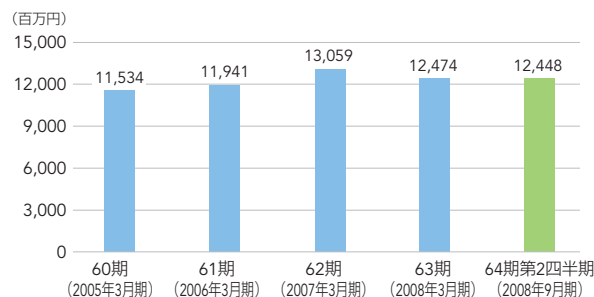
1株当たり四半期(当期)純利益

■ 通期 ■ 第2四半期



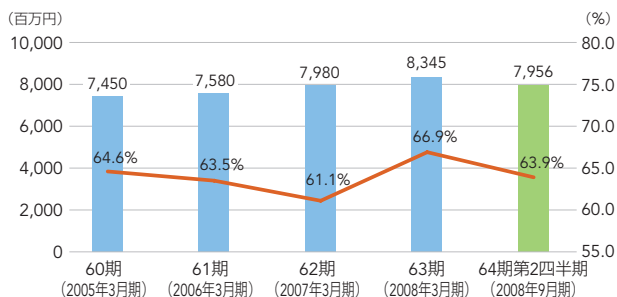
総資産

■ 通期 ■ 第2四半期



自己資本/自己資本比率

■ 通期 ■ 第2四半期 — 自己資本比率





Business Overview

営業の概況

当第2四半期の概要（連結）

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、米国経済の低迷や原油等資源価格高騰の長期化が企業収益・個人消費を圧迫し、景気の減速傾向は一層強まり、先行き不透明な状況で推移いたしました。このような状況のもと、当社グループにおきましては、主力製品である超小型水晶製品の販売を推し進めましたが、市況の悪化に伴う携帯電話・無線モジュール向け製品の受注減、また、競争激化による販売価格の下落等の影響が大きく、売上高は35億9千1百万円（前年同期比28.2%減）となりました。また、利益につきましては、生産体制の最適化等による原価低減、労務費を中心とした固

定費削減に努めましたが、売上高減少の影響により、営業損失は4千7百万円（前年同期は7億1千1百万円の営業利益）、経常損失は2千9百万円（前年同期は7億1千6百万円の経常利益）となりました。また、特別損失として第1四半期連結会計期間より適用の「棚卸資産の評価に関する会計基準」による影響額と当社子会社における貸付金一部回収不能の恐れに伴う貸倒引当金繰入額等を計上したことにより、四半期純損失は2億4千2百万円（前年同期は4億1千万円の間接純利益）となりました。

通期の見通し

今後の見通しにつきましては、金融・資本市場を中心とする景気動向において、さらに不透明感が増すものと思われる、第3四半期以降も厳しい経営環境が予想されます。当社グループとしましても、強みである超小型水晶製品の市場開拓を進めるとともに提案営業力の強化、生産設備の稼働効率の向上及び固定費圧縮等のコスト削減に努めてまいります。市況悪化の影響による受注数量の低下や競争激化による販売価格下落の懸念もあり、引き続き厳しい状況が見込まれます。

当社は、水晶製品への依存度が連結売上高の9割を超えており、また当社水晶製品は最終消費者向けの製品に使用される割合が高いことから個人消費等の後退局面化においては需

要が減少する事業上のリスクを抱えております。

このような背景から当社においては、第3四半期以降もデジタル機器の世界的な需要低迷から、販売競争が激化することが予想され、売上高においては、上期の業績も大きく影響し、携帯電話・無線モジュール向け製品を中心に水晶製品の販売数量、販売価格ともにそれぞれ前回予想を下回る67億7千万円となる見込みであります。利益面においては、売上高減少の影響が大きく、営業損失6億8千万円、経常損失6億7千2百万円、当期純損失8億3千4百万円となる見込みであります。

将来に関する記述についての注意事項

本資料に記載されている業績予想および客観的事実以外の記述に関しましては、当社が現在入手している情報から得られた判断に基づいておりますが、リスクや不確実性を含んでおります。当社グループの事業を取り巻く環境の変化等により、実際の業績等は異なる可能性があることにご注意ください。



セグメント別営業の概要

水晶製品事業におきましては、主力製品である超小型水晶振動子「FCX-06」や「FCX-07」を軸に、携帯電話やモバイル機器への事業拡大を図りました。また、今年の3月に発表した音叉型水晶振動子「TFX-03」もモバイル機器の時計機能としての需要を見込んでいましたが、予想を上回る市況の悪化に伴う携帯電話・無線モジュール向け製品の受注減少や、販売価格競争の激化により、前年同期の売上高を大きく下回りました。

当事業を用途別で見ると、チューナーモジュール向け製品は前年同期の売上高を上回ったものの、他の製品では軒並み低調に推移し、特に無線モジュール及び携帯電話向け製品が大幅に減収するという厳しい内容となりました。

以上の結果、当事業の連結売上高は33億2千3百万円（前年同期比28.8%減）となり、営業利益においては3億5千6百万円（前年同期比70.9%減）と大幅な減益となりました。

抵抗器事業におきましては、海外市場のみで事業展開しており、主としてAV機器や電源などの用途に使われています。当事業の売上高は、AV機器向け製品の受注が減少したこと等により、1億3千1百万円（前年同期比26.1%減）となりました。

インダクタ事業におきましては、主としてAV機器や照明機器などの分野に販売を展開しております。当事業の売上高は、前年同期とほぼ横ばいで推移し、9千5百万円（前年同期比3.0%減）となりました。

なお、前年同期比につきましては、参考として記載しております。

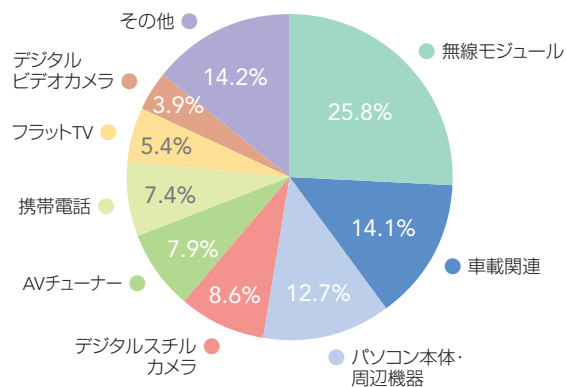
セグメント別売上高・営業利益（連結）

（単位：百万円）

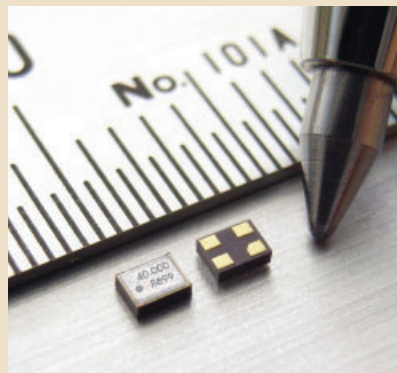
	売上高	営業利益
水晶製品	3,323	356
抵抗器	131	21
インダクタ	95	8
その他	42	15
全社又は消去	—	△448
合計	3,591	△47

（注）全社又は消去の主な内容は当社の管理部門に係る費用になります。

水晶製品用途別売上高構成（連結）



NEW PRODUCT

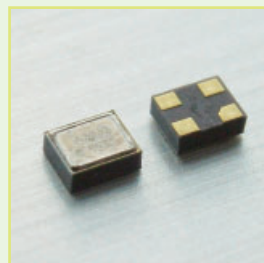


世界最小クラスの水晶発振器を開発

FCXO-07

容積約52%、実装面積は従来の約60%に小型化

当社は、水晶デバイスの小型化需要の高まりに対応した新製品「FCXO-07」を開発しました。「FCXO-07」は、小型モバイル製品、小型医療機器を始めとする幅広い分野での活躍が見込まれる世界最小クラスの超小型水晶発振器であり、当社従来製品FCXO-06に比べ、容積が約半分という小型化・軽量化を実現しました。2008年11月よりサンプル対応を開始し、2009年4月からは子会社である青森リバーテクノ株式会社において、生産開始を予定しています。



FCXO-06

cubic volume

2.56mm³

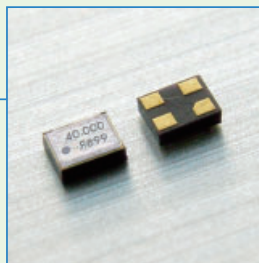
FCXO-07

cubic volume

1.34mm³

Volume Capacity

-48%



FCXO-07

- 世界最小クラスの小型設計 (1.6×1.2×0.7mm MAX.)
- セラミックパッケージと金属蓋で高信頼性確保
- 幅広い対応周波数範囲(1~80MHz)
- 幅広い電源電圧対応(1.8V~3.3V)
- 低消費電流(1mA/40MHz@3V)
- RoHS指令対応製品・完全鉛フリー製品

Column

水晶デバイスのルーツは山梨にあり!?

山梨県といえば、富士山、ワイン、桃、ぶどう、ほうとうなどが思い浮かびますが、有数の宝石の生産地として、その研磨・加工技術力の高さで有名なことも広く知られています。

宝石の中でとりわけ産出量が多い水晶の発掘が始まったのは戦国時代。今では観光地として人気のある昇仙峡です。かの有名な武田信玄も水晶を身に付けていたとか。

本社が山梨ということもあり、天然の水晶を使っていると思

われる方もいらっしゃると思いますが、当社の水晶デバイスに使用しているのは人工的に結晶化した水晶です。宝飾には天然物が喜ばれますが、電子部品には不純物のない人工水晶の方が安定した性能を発揮することができるのです。また、水晶デバイスには山梨で培われた高い技術力が欠かせません。古より人々を魅了し続けてきた水晶が、今やなくてはならない電子機器の中で私達の生活を支えているとは思えないものです。



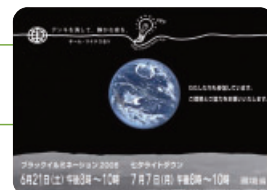
Topics 1 **リバーグループが取り組む環境保全や社会への貢献活動**

リバーエレテックおよびグループ会社では、地域社会や地球環境に配慮した様々な取り組みを積極的に行っています。

当社荊崎本社では年3回、周辺地域のゴミや空き缶、雑草や落葉を主に収集する清掃活動に取り組み、リサイクルや地球の環境美化に努めています。

青森リバーテクノでは、6月21日(土)～7月7日(月)に「CO₂削減/ライトダウンキャンペーン～あかりを消して、地球にやさしい生活を見つめ直そう～」に参加し、夜8時から2時間の2時間、青森リバーテクノ4工場で社員駐車場の照明施設を一齐消灯しました。サミットイヤーである今年は、京都議定書第一約束期間の初年度でもあり、全国で149,939箇所の参加があり2,371,786.51kWhの電力量を削減した結果、925トンのCO₂削減に貢献することができました。

今後もリバーグループでは継続的な活動を行うとともに、社員一人一人が地球環境への理解を深め、持続可能な社会の実現に貢献します。



6月14日早朝の清掃活動の様子

Topics 2 **リバーエレテックのホームページを全面リニューアルしました。**

2008年9月1日、情報の充実とステークホルダーとのより良いコミュニケーション構築を目的に、当社Webサイトの全面リニューアルを行いました。これまでの製品情報、会社情報、投資家向け情報の開示を図るだけでなく、利用者が目的の情報にたどりやすいよう、わかりやすさに配慮したサイトにこだわりました。

<http://www.river-ele.co.jp/>



投資家情報の充実を
図りました



投資家情報では、皆様のご要望が多数あった中期経営計画やトップメッセージを新設し、IRカレンダーや財務ハイライトなど直感的にわかりやすく、タイムリーな情報開示を心がけています。

従来にはなかった
新しいページが増えました



コーポレートガバナンスや製品の技術レポートなど、新設したページがたくさんあります。

サイト内検索機能を
設けました



当社Webサイトにある大量の情報から、探したいものをすばやく検索できるサイト内検索機能を全てのページに設置しました。



Consolidated Financial Statements

連結財務諸表

四半期連結貸借対照表(要旨)

(単位:千円)

科目	前第2四半期 (2007年9月30日現在)	当第2四半期 (2008年9月30日現在)	前期 (2008年3月31日現在)
資産の部			
流動資産	6,176,961	5,424,253	5,185,387
現金及び預金	1,788,962	1,794,279	1,552,379
受取手形及び売掛金	3,141,636	2,315,919	2,405,868
たな卸資産	849,217	962,709	911,223
繰延税金資産	267,443	195,292	164,628
その他	133,948	159,477	155,036
貸倒引当金	△4,248	△3,426	△3,749
固定資産	7,403,453	7,024,448	7,289,213
有形固定資産	6,918,785	6,673,644	6,816,095
建物及び構築物	1,489,610	1,416,609	1,447,470
機械装置及び運搬具	3,789,585	4,175,569	4,234,957
工具、器具及び備品	212,520	191,169	187,606
土地	544,034	472,026	472,026
リース資産	—	3,505	—
建設仮勘定	883,035	414,763	474,034
無形固定資産	38,085	31,817	34,455
投資その他の資産	446,582	318,985	438,663
資産合計	13,580,414	12,448,701	12,474,601

(単位:千円)

科目	前第2四半期 (2007年9月30日現在)	当第2四半期 (2008年9月30日現在)	前期 (2008年3月31日現在)
負債の部			
流動負債	4,147,495	3,047,019	3,113,037
支払手形及び買掛金	1,201,184	927,693	958,617
1年以内償還予定社債	20,000	—	10,000
短期借入金	463,496	768,550	677,573
1年以内返済予定の長期借入金	289,951	399,444	255,624
未払法人税等	322,306	74,137	167,537
賞与引当金	291,832	120,260	230,581
設備関係支払手形	742,726	245,558	367,445
その他	815,998	511,376	445,656
固定負債	777,343	1,153,733	675,588
長期借入金	552,696	911,572	433,134
繰延税金負債	8,473	3,226	12,359
退職給付引当金	90,813	103,442	97,085
役員退職慰労引当金	125,360	132,600	133,010
その他	—	2,892	—
負債合計	4,924,838	4,200,753	3,788,626
純資産の部			
株主資本	8,347,325	8,144,422	8,468,383
資本金	1,070,520	1,070,520	1,070,520
資本剰余金	957,810	957,810	957,810
利益剰余金	6,319,955	6,117,052	6,441,013
自己株式	△959	△959	△959
評価・換算差額等	△48,243	△187,502	△122,689
その他有価証券評価差額金	38,942	△8,562	12,695
為替換算調整勘定	△87,186	△178,940	△135,385
少数株主持分	356,493	291,028	340,281
純資産合計	8,655,575	8,247,948	8,685,975
負債純資産合計	13,580,414	12,448,701	12,474,601



四半期連結損益計算書(要旨)

(単位:千円)

科目	前第2四半期(累計) 2007年4月1日から 2007年9月30日まで	当第2四半期(累計) 2008年4月1日から 2008年9月30日まで	前期 2007年4月1日から 2008年3月31日まで
売上高	5,000,349	3,591,713	9,287,110
売上原価	3,395,500	2,877,797	6,591,346
売上総利益	1,604,848	713,915	2,695,764
販売費及び一般管理費	893,669	761,180	1,703,043
営業利益	711,178	△47,264	992,721
営業外収益	33,000	33,086	66,927
営業外費用	28,159	15,377	60,798
経常利益	716,019	△29,555	998,850
特別利益	9	61	40,595
特別損失	26,784	130,882	42,056
税金等調整前四半期(当期)純利益	689,244	△160,377	997,389
法人税、住民税及び事業税	311,346	66,960	340,119
法人税等調整額	△35,584	52,650	64,749
少数株主利益	2,595	△37,898	4,389
四半期(当期)純利益	410,886	△242,089	588,131

当冊子の表記について

当連結会計年度から導入された「四半期財務諸表に関する会計基準」及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」では、当四半期連結財務諸表と前年四半期財務諸表の作成基準や用語表現が異なります。本書では、前年比較に関する情報は当第2四半期の連結財務諸表の表示方法に合わせて、組み換え及び修正表示をしています。また、収益関連数値については「累計値」を用いています。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:千円)

科目	前第2四半期(累計) 2007年4月1日から 2007年9月30日まで	当第2四半期(累計) 2008年4月1日から 2008年9月30日まで	前期 2007年4月1日から 2008年3月31日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	625,969	164,405	1,600,438
投資活動による キャッシュ・フロー	△785,847	△499,615	△1,421,878
財務活動による キャッシュ・フロー	△562,321	657,407	△568,306
現金及び現金同等物に 係る換算差額	19,560	△32,972	△5,013
現金及び現金同等物の 増減額(減少:△)	△702,639	289,225	△394,759
現金及び現金同等物の 期首残高	1,382,129	987,369	1,382,129
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	679,489	1,276,595	987,369

1 POINT 売上高

売上高の9割を占める水晶製品事業において、携帯電話・無線モジュール向けの不振により前年同期比14億8百万円の減収となりました。

2 POINT 営業利益

生産体制の最適化による原価低減、固定費の削減に努めたものの、売上高減少を吸収できず、前年同期比7億5千8百万円の減益となりました。

3 POINT フリーキャッシュ・フロー(営業CF+投資CF)

フリーキャッシュ・フローは、前年同期に比べ1億7千5百万円減少しました。これは、設備投資等の投資活動を制御したものの、税金等調整前純損失を計上したことが主要因となっています。



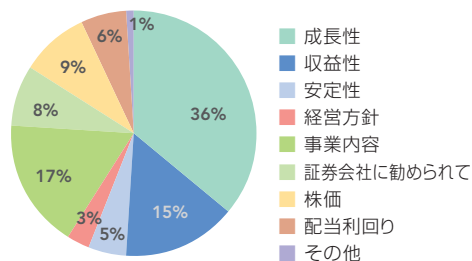
Stakeholders Communication

株主様アンケート特集

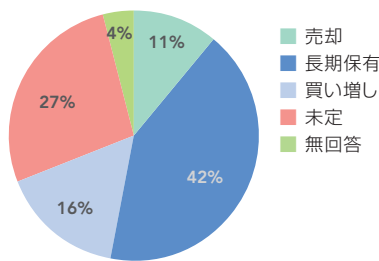
第63期事業報告書の送付に際してアンケートを同封し、当社株式に対する意識調査を実施させていただいた結果、161名(回答率9.3%)という数多くのご回答が寄せられました。ご協力いただきました株主の皆様には深く感謝申し上げます。

このほか、株価や配当、経営・業績、IR活動に対する厳しいご意見やご要望、支援のお言葉なども数多くいただきました。当社では、皆様からの貴重なご意見を今後の活動に反映させるべく努め、企業価値の向上に取り組んでまいります。

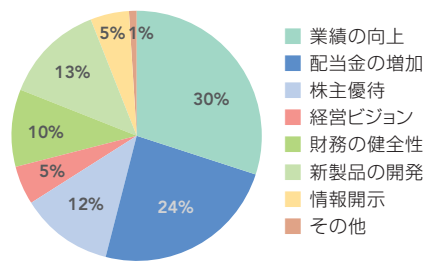
Q. 当社株式をご購入になった理由



Q. 今後の当社株式についてはどのような方針をお持ちですか



Q. 当社の株式を長期保有していただくためには何が重要とお考えですか



株主の皆様のご意見

- ・若尾社長の株主通信のお話し非常に良かった。09.3月は収益下降、株価も低迷していますが、後半V字回復になること祈っています。ガンバレ！
- ・株価は会社に対する社会的評価と思うが、500円割れの価値しかないのか疑問に思う。正当な評価がされるまで、資産株となるまで保有し続ける予定。
- ・売上、業績が低迷している。製品の小型化だけで今後企業として生きのびてゆけるのだろうか？他社がまねのできない製品を作ってください。
- ・最近の低株価は業績の悪化によるものと考えられる。今期よりも来期に期待したい。財務は健全なので、配当維持（or増配も）を最低限、堅持されよ。
- ・会社の経営は社長、役員をはじめ社員の皆様方の努力に期待します。素人が口を出してもはじまりません。ただ時々チェックはしたいと思います。株主優待があれば長期保有も可。
- ・松下幸之助社長は社員の採用には“自分は運が良いと思う”と答えた人を採用したそうです。社員の運を十分活用していただきたい。





Corporate Profile & Stock Information

会社概要・株式の状況

会社概要

(2008年9月30日現在)

商号	リバーエレテック株式会社 RIVER ELETEC CORPORATION		
設立	1951年3月9日		
資本金	1,070,520,150円		
従業員数	117名		
役員	代表取締役社長	若尾 富士男	
	専務取締役	岩下 功	
	取締役	浅川 芳孝	
	取締役	三枝 康孝	
	取締役	大塩 久男	
	取締役	三浦 理	
	常勤監査役	江上 年秋	
	社外監査役	中津山 準一	
	社外監査役	小林 栢弘	
事業所			
本社	〒407-8502 山梨県韮崎市富士見ヶ丘2丁目1番11号		
東京営業所	〒160-0023 東京都新宿区西新宿4丁目40番14号		
大阪営業所	〒570-0083 大阪府守口市京阪本通1丁目3番2号 新近藤ビル3F		
名古屋営業所	〒465-0043 愛知県名古屋市中東区宝ヶ丘292番地 藤佳ビル2F		
宇都宮営業所	〒320-0057 栃木県宇都宮市中戸祭1丁目13番27号		

リバーグループ(子会社の状況)

会社名	資本金	議決権比率(%)	事業内容
青森リバーテクノ株式会社	千円 50,000	100	電子部品の製造
台湾利巴股份有限公司	千台湾元 24,000	60	電子部品の販売
River Electronics (Singapore) Pte. Ltd.	千米ドル 123	100	電子部品の販売
River Electronics (Ipoh) Sdn. Bhd.	千マレーシアリンギット 10,695	60	電子部品の製造

株式の状況

(2008年9月30日現在)

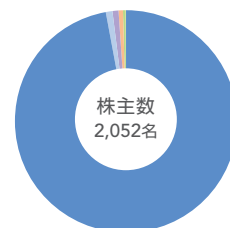
発行可能株式総数	21,600,000株
発行済株式の総数	7,492,652株 (自己株式1,058株を含む)

株主数	2,052名 (前期末比336名増)
-----	-----------------------

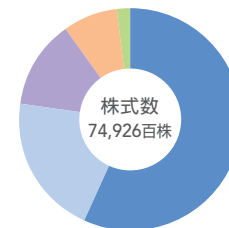
大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数(百株)	持株比率(%)
若光株式会社	12,033	16.06
竹田和平	3,000	4.00
ノーザントラスト カンパニー エイブイエフ シー リ ノーザントラスト ガンジー ノン トリーティアー クライアantz	2,994	4.00
株式会社山梨中央銀行	2,680	3.58
リバー従業員持株会	1,671	2.23
ノーザントラスト カンパニー エイブイエフ シー リ ノーザントラスト ガンジー アイリッシュ クライアantz	1,602	2.14
野武洋平	1,560	2.08
株式会社みすほ銀行	1,500	2.00
若尾富士男	1,499	2.00
株式会社アエリア	1,454	1.94

所有者別株主数分布状況



所有者別株式数分布状況



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月開催
基準日 定時株主総会 毎年3月31日
期末配当金 毎年3月31日
中間配当金 毎年9月30日
そのほか必要があるときには、あらかじめ公告して臨時に定めることがあります。

単元株式数 100株
株主名簿管理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所 東京都中央区八重洲二丁目3番1号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先 (住所変更等用紙のご請求) ☎0120-175-417
(その他のご照会) ☎0120-176-417

ホームページURL <http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>
同取次所 住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店
公告方法 電子公告により行います。
当社ホームページに掲載 <http://www.river-ele.co.jp/>
ただし、事故その他の止むを得ない事由によって電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

上場証券取引所 ジャスダック証券取引所
証券・銘柄コード 6666

【株券電子化後の株式に関するお届出先およびご照会先について】

平成21年1月5日に株券電子化となります。その後のご住所変更等のお届出およびご照会は、株主様の口座のある証券会社宛にお願いいたします。
株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていない株主様には、株主名簿管理人である上記の住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といひます。)を開設いたします。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

【株券電子化前後の単元未満株式の買取請求のお取扱いについて】

特別口座の株主様につきましては、株券電子化の施行日(平成21年1月5日)から平成21年1月25日まで、受付を停止いたします。また、平成20年12月25日から30日までに請求をいただいた場合は、代金のお支払は平成21年1月26日以降となります。
※単元未満株式について「ほふり」を利用されている株主様につきましては、上記取り扱いと異なりますので、お取引の証券会社へお問い合わせください。